

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 富岡市立妙義中学校 】

1 実践テーマ	I・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	富岡市立妙義中学校 全校生徒 (男子 33名 女子40名 計73名) 第1学年 (男子 10名 女子 9名 計19名) 第2学年 (男子 9名 女子14名 計23名) 第3学年 (男子 14名 女子17名 計31名) 教職員 18名 講演会(11月26日)参加保護者 9名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(学級活動 道徳 総合的な学習の時間) ② 行事名(オリンピック・パラリンピック教育講演会) ③ その他(生徒会朝礼、妙義中校区小中連携事業「教職員研修」)
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高め、スポーツをより多くの人と交流しながら楽しむ心の育成を図る。 ○グローバル化された社会の中で、多様な人権を互いに尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を築いていこうとする意欲と態度の育成を図る。 ○障害とともに生きるアスリートの生き方や思いを聞き、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図る。
5 取組内容	1 妙義中学校 オリンピック・パラリンピック教育推進委員会の組織編成 ○推進委員の構成 校長、教頭、教務主任、オリンピック・パラリンピック教育推進主任、学年主任、PTA 会長 ○推進委員会での協議内容 ・取り組みの方向性の協議 ・推進計画の作成 ・推進計画の実践、評価、及び報告書の作成 2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る取組 【1学期】 ①事業概要の把握と取組内容の検討 ・群馬県教育委員会健康体育課、西部教育事務所、富岡市教育委員会と

## の連携

- ②オリンピック・パラリンピック教育推進委員会への出席
- ③推進計画の作成（推進委員会の開催）
- ④教職員の共通理解
- ⑤全校朝礼での講話
- ⑥生徒会本部役員による取組
- ⑦パラリンピック正式種目ボッチャの視察

7月10日 於 あさひ特別支援学校 教務主任派遣



図1 ボッチャ視察研修1



図2 ボッチャ視察研修2

### 「所見」

あさひ特別支援学校のご厚意で、パラリンピック正式種目であるボッチャの視察を行うことができた。当日は、8月6日に行う研修会の打ち合わせと、8月に行われる全国大会に向けての練習に取り組む生徒の様子を拝見させていただいた。奥深い競技であるが、小中学生にも取り組むことができる競技だという感想を持った。（教務主任）

### 【夏期休業中】

#### ①妙義中学校区小中連携教職員研修

8月6日 於 妙義中学校体育館

#### ・パラリンピック正式種目（ボッチャ）に係る職員研修

講師：あさひ特別支援学校 内田様 田中様

参加者：妙義中学校教職員 7名

高田小学校教職員 9名

妙義小学校教職員 9名 計25名



図3 ボッチャ研修1



図4 ボッチャ研修2

### 「所見」

今年度は、小中連携事業の一環として実施している夏季研修会で、あさひ特別支援学校様のご支援をいただき、パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の実技研修会を実施した。研修会では、はじめに、講師の先生から「ボッチャ」のルールなどの説明を受けた。その後、3校の教職員が5つのチームに分かれ、実際にゲームを行った。研修会を通して、教職員同士の交流が深まると共に、パラリンピックへの関心を高めることができた。（教頭）

②生徒会本部役員により、オリンピック、パラリンピックに関するアンケートのまとめ

【2学期】

①生徒会本部役員による「オリンピック、パラリンピックに関するアンケートのまとめと発表（生徒会朝礼）」

9月10日 於 妙義中体育館

- ・一学期に実施した、オリンピック、パラリンピックに関するアンケートにあった疑問（参加する国、チケット料金、経済効果等）について生徒会本部役員が、全校生徒に発表した。



図5 生徒会朝礼1



図6 生徒会朝礼2

「所見」

- ・2020年東京オリンピック、パラリンピックの開催まで1年をきりました。オリンピック、パラリンピックについて調べてみて、知らないことがたくさんあるんだなと思いました。将来、オリンピック、パラリンピックにボランティアとして参加したい気持ちになりました。（生徒会長）
- ・オリンピック、パラリンピックについて調べてみて、その目的や思いを知ることができました。来年は、テレビで、たくさん応援します。（生徒会副会長）

②妙中祭での生徒会長によるオリパラ推進の呼びかけ

9月21日 妙中祭（運動会）

妙中祭（運動会）の開会式で、生徒会長があいさつの中で、来賓や保護者に対して、今年度、オリンピック、パラリンピック教育推進校として妙義中学校が取り組んでいる内容について紹介した。



図7 妙中祭での挨拶

③オリンピック・パラリンピック教育講演会I（PTA共催）

11月26日 10:30~12:00

於 妙義中学校体育館

参加者 生徒 73名 教職員11名 保護者 9名

講師 沖野敦郎 様（義肢装具士）

パラリンピック・リオデジャネイロ大会男子走り幅跳びの銀メダリス

ト、山本篤選手の義足を手がけるなど、パラアスリートを支える義肢装具士である沖野敦郎様を講師とした講演会をPTAとの共催事業として実施した。



図8 オリパラ講演会1



図9 オリパラ講演会2

「講演を聞いての生徒の感想から」

- 今まで、あまりよく知らなかったパラリンピックについて学ぶことができました。義肢を使うことの難しさを体験できました、パラアスリートの方の努力のすごさを感じました。これからもっとパラリンピックについて知りたいと思います。最高のパラリンピックを見たいです。
- 私は、これまでパラリンピックは見たことがありませんでした。今回の講演で義肢装具士という仕事の理解が深まるとともに、パラリンピックに出ている選手の努力について学ぶことができました。東京2020オリ・パラを楽しみにしています。
- 今回の講演で「義肢装具士」という仕事を知ることができました。パラアスリートなど義足や義手を必要とする人にとって、大切な体の一部を作るとともに、その人の希望や将来も作っていくすごい仕事と思いました。
- 今回の講演で、沖野さんからパラリンピックのこと、義足のこと義手のことなど様々なことを知ることができました。来年はオリンピックだけではなくパラリンピックも見たいと思いました。
- 自分は今まで、オリンピック・パラリンピックについて、詳しくありませんでした。しかし、今回の講演を通して、オリンピックとパラリンピックを見る目線が変わった気がします。
- 私は、パラリンピックを見て、義肢を誰が作っているか知りませんでした。義肢装具士さんの少なさにも驚きました。私も、沖野さんのようにどの世代の人にも夢を与えられるような仕事をしたいです。今回の講演は夢を見つける第一歩になったと思います。

#### ④オリンピック・パラリンピック教育講演会Ⅱ

12月10日 14:00～15:00 於 妙義中学校音楽室

参加者 生徒73名 教職員11名

講師 齋藤嘉彦 様 (バルセロナオリンピック出場)

1992年 バルセロナオリンピックの400mH、4×400mRに日本代表として出場したオリンピックである齋藤嘉彦先生を講師とした講演会を実施した。富岡市出身の齋藤先生から、オリンピックの選手村や競技前の様子などユーモアを交えながらお話ししていただいた。

生徒は、夢を持つこと、目標に向かって努力することの大切さを学ぶとともに東京2020オリンピック、パラリンピックへの興味、関心を高めることができた。



図10 オリパラ講演会3



図11 オリパラ講演会4

「講演を聞いての生徒の感想から」

- オリンピックの選手村や、大会でのエピソードをユーモアたっぷりで話していただき、とても楽しく聞くことができました。普段知ることができない選手の意外な一面を知ることができました。また、練習の時の動きを言語化するという話には驚きましたが、そのような練習の仕方もあるのだと勉強になりました。今回の話を思い出しながら来年東京オリンピック、パラリンピックを楽しみたいと思います。
- 私は講演の中で、齋藤先生がライバルに負けられないために練習をたくさんしていたとおっしゃっていたのが、とても印象的でした。3年生で受験が近いため、心の中でライバルを作って、そのライバルに負けられないようにたくさん勉強したいと思います。来年の東京オリンピック、パラリンピックもたくさん応援します。
- 先生のお話を聞いて、オリンピックは、人と人との交流を国という壁を越えてできる祭典だということ学びました。オリンピックの選手村のお話も楽しかったです。オリンピックを見る楽しみが増えました。
- オリンピックのお話だけではなく、物事に対する考え方を学ぶことができました。特に印象に残ったのは仲間と互いに競い合い高め合うということです。オリンピックについて貴重なお話を聞いて、来年の東京オリンピック、パラリンピックを見るのが楽しみになりました。

#### ⑤パラリンピック正式種目（ボッチャ）の体験

12月6日 第2学年 12月13日 第1学年

12月18日 第3学年

各学年ごとに、パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の体験授業を学級活動の時間に実施した。

はじめに、ルールを説明し、その後、実際にゲームを体験した。生徒は、一投によって勝敗が決する「ボッチャ」の楽しさを味わいながら、笑顔いっぱいゲームに講じていた。ゲームの途中で作戦タイムを設けるなど、グループで考える活動も行うことができ、チームワークの大切さも学ぶことができた。



図12 「ボッチャ」の体験1



図13 「ボッチャ」の体験2

⑥国際パラリンピック委員会公認教材 “I’m POSSIBLE” を活用した授業実践（人権旬間）

12月4日 第1学年 12月5日 第2学年  
12月6日 第3学年

人権旬間の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進を兼ねて、国際パラリンピック委員会公認教材 “I’m POSSIBLE” を活用した授業実践を行った。「村岡桃佳さん」を取り上げた内容をアレンジした教材での授業実践だった。



図14 授業実践1



図15 授業実践2

「生徒のワークシートから」

- ・障害を乗り越え競技に打ち込む村岡さんの生き方に感動しました。パラアスリートの方の努力のすごさを感じました。東京パラリンピックでは、選手のみなさんを一生懸命応援しようと思います。
- ・自分も、これからいろいろな壁を乗り越え、たくましく生きていこうと思います。

⑦「2020年東京オリンピック・パラリンピック パラアスリートとの交流事業」への参加

2月12日（水）14：00～15：00

対象 第1学年、第2学年生徒 42名

教職員 11名

講師 石橋 元気 様

（株）あいおいニッセイ同和損害保険所属）

富岡市では2020年東京パラリンピックを契機として、市内の小・中学校の児童・生徒が、障害があるアスリートと直接ふれ合う機会を設け、障害のある選手からの言葉、スポーツ交流を通して「心のバリアフリー」や「共生社会の実現」を進展することを目的としたパラアスリートとの交流事業を実施している。その事業に、東京2020オリンピック、パラリンピック教育推進の一環として妙義中学校も参加することとした。

「内容」

○パラアスリート 石橋元気様からの講演

○パラリンピック正式種目「ボッチャ」を通しての交流

⑧東京2020オリンピック聖火リレーにサポートランナーとして参加  
東京2020大会に向けた機運を日本全国で高めることを目的として47都道府県で聖火リレーが実施されることとなり、富岡市でも、令和2年4月1日に、富岡製糸場から富岡市役所までのルートで聖火リレーが実施される。その際、富岡市役所で行われるミニセレブレーション会場でのサポートランナーに、妙義中学校から20名の生徒が選出された。

	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて、生徒の意欲・関心を高める貴重な機会ととらえ、学校、保護者で連携協力して、支援していくこととした。</p>
6 主な成果	<p>○オリンピック・パラリンピックへの理解を深めることを通して、生徒の2020年オリンピック、パラリンピック東京大会へ主体的に参画しようとする意欲を高めることができた。</p> <p>○パラリンピック競技の体験を通して、人権を互いに尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を築いていこうとする意欲と態度を育成することができた。</p> <p>○パラリンピアンを支える義肢装具士による講演とパラリンピアンを教材とした道徳科の授業実践を通して、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度を育成することができた。</p> <p>○保護者や地域に「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」の取組の紹介や講演会への参加を呼びかけることを通して、本事業への支援を「チーム妙義中」で行う意識を高めることができた。</p> <p>○妙義中学校区小中連携教職員研修で、パラリンピック競技に係る研修を行うことを通して、小中で連携して教職員のパラリンピック東京大会への興味、関心を高めることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○東京2020オリンピック、パラリンピックを主体的に推進していこうとする意欲を高めるために、生徒会本部役員のアイデアを生かす実践を試みた。生徒へのアンケート、まとめの発表を通して、この事業への参加意識が高まった。また、妙中祭での生徒会長の呼びかけを通して、広く保護者や地域の方にも本事業の取組を伝えることができた。</p> <p>○オリンピック、パラリンピック教育講演会をPTAとの共催という形で実施した。パラアスリートを支える義肢装具士沖野様の講演によって、保護者にもパラリンピックへの興味・関心を高めることができた。</p> <p>○オリンピック、パラリンピック教育講演会に地元富岡市出身の齋藤様を講師としてお招きした。齋藤先生の地元富岡市での中学校、高等学校時代のエピソードは、生徒の興味、関心を高めることにつながった。地元の特徴を生かした取組となった。</p>
8 主な課題等	<p>今年度の取組によって東京オリンピック、パラリンピックへの興味、関心が高まった。次年度は、実際に行われる東京オリンピック、パラリンピックに、どのように関わっていくのか。どのように関わらせることをゴールの姿とするかを明確にしていくことが課題である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>オリンピック、パラリンピックに関わる講演や実践を通して、東京2020オリンピック、パラリンピックへの興味関心をより高めていく。そして、その経験を通して、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図っていく。</p>